

6 - 3 1985年10月22日播磨灘の地震 (M4.5) について

The Earthquake (M4.5) in Harima-nada on October 22, 1985

京都大学防災研究所鳥取微小地震観測所

京都大学理学部地球物理学教室

Tottori Microearthquake Observatory, Disaster

Prevention Research Institute, Kyoto University

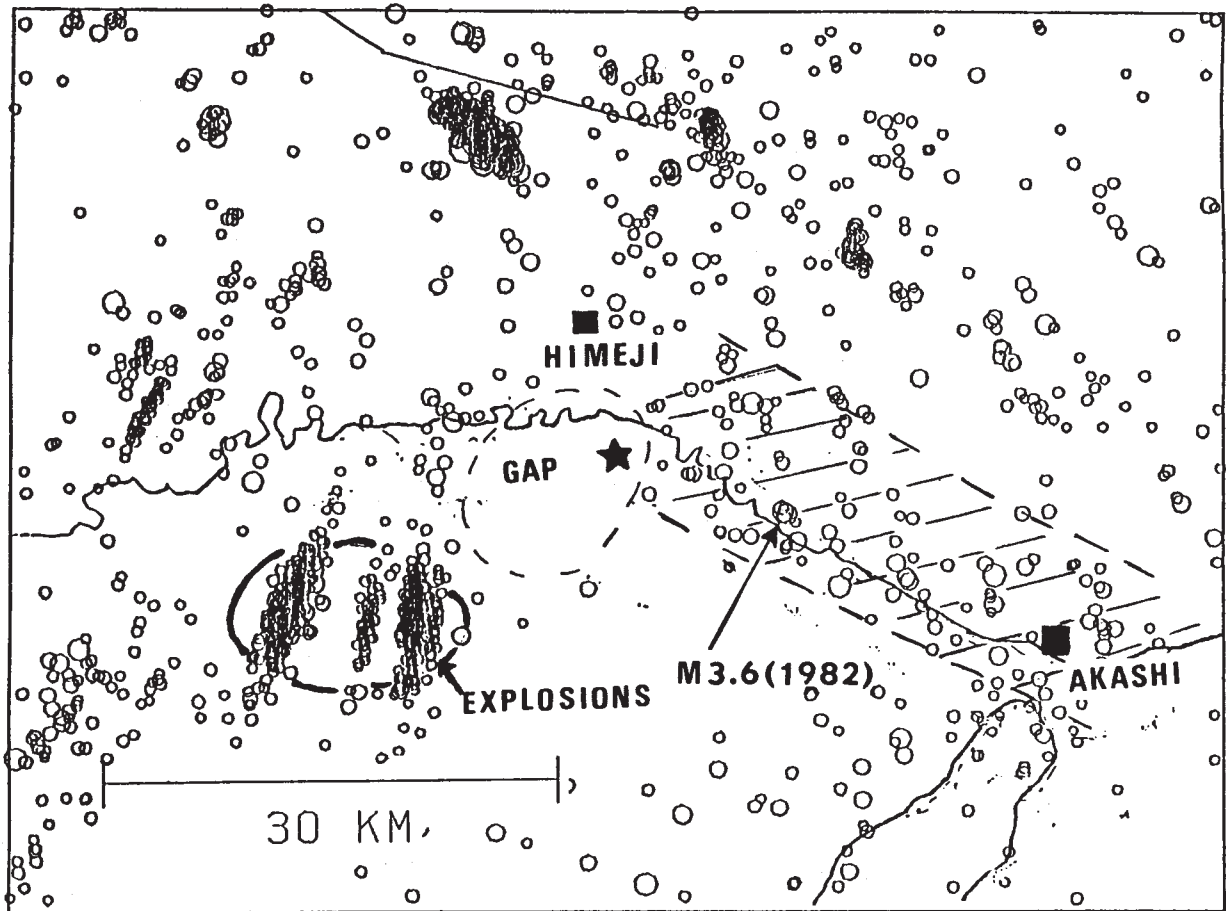
Geophysical Institute, Faculty of Science, Kyoto University

第1図は鳥取微小地震観測所による、兵庫県南部・播磨灘地域のサイズミシティ・マップ(1976年5月～1985年6月, $M > 1.5$)である。姫路から明石にかけての播磨灘沿岸地帯は、一つの地震活動帯をなしている。今回の地震 (M4.5) は、この活動帯の北西端に起こり、このあたりとしては大きな地震であった。これまでの目立った活動としては、1) 1969年4～6月、姫路付近の群発 (M3.5, 3.2, 3.1), 2) 1969年10月、加古川付近, M3.5, 3.1, 3) 1982年8～9月、加古川付近, M3.6, 3.4, 3.3などがあつた。

第2図は生野地殻変動観測室 (京大理・地球物理学教室) の位置図 (a) 及び計器配置図 (b) である。第2 (a) 図には、今回の地震及び1984年5月30日の山崎断層の地震¹⁾の震央が併せ示してある。第3図に示すように、今回の地震発生の直前 (約0.7日前) に伸縮計 (EXT4) に異常な伸びが始まったように見える。第4図は、上記の山崎断層の地震の時の伸縮変化であるが、EXT4に、地震発生の約6.5日前から同様な伸びが始まっている。ただしこれら2例が地震発生に関連するか否かは今後の研究にまたねばならない。

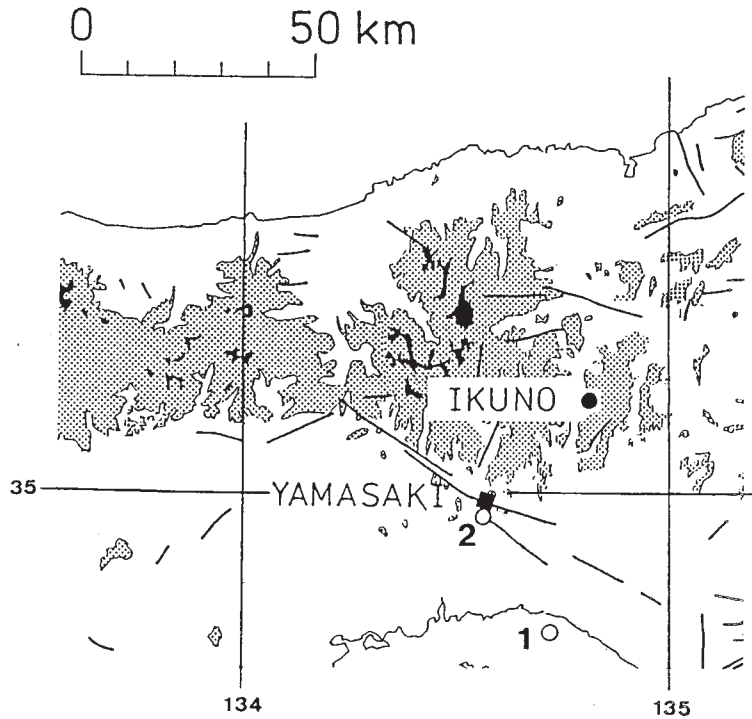
参 考 文 献

- 1) 山崎断層研究グループ：山崎断層の地震 (1984年5月30日, M5.6) について, 連絡会報, **33** (1985), 355 - 382.



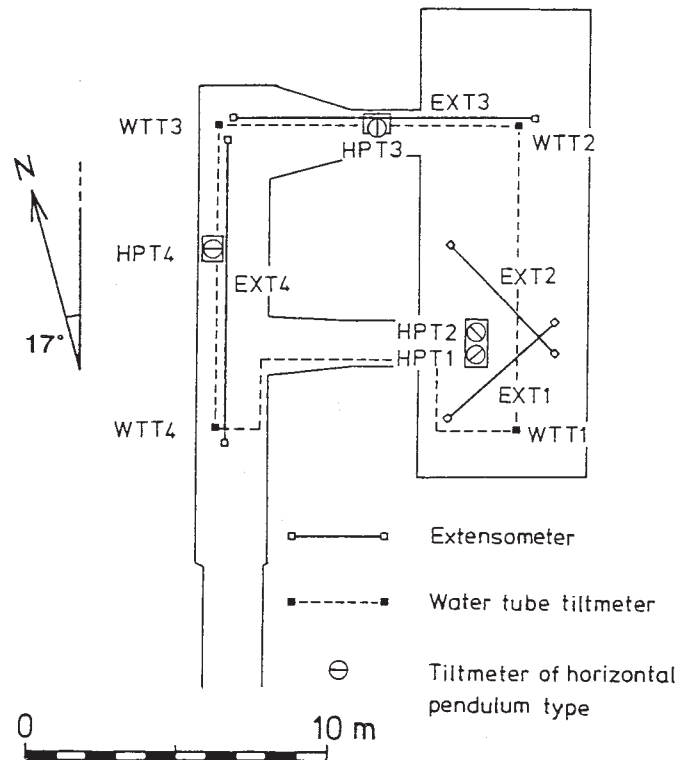
第1図 震央分布図 (1976年5月～1985年6月, $M > 1.5$)。星印：今回の地震, 斜線部：地震活動帯。

Fig. 1 Epicenter distribution in an area covering southern Hyogo Pref. and Harima-nada (May, 1976 - June, 1985, $M > 1.5$). Asterisk shows the present epicenter and shaded part represents a seismic active zone.



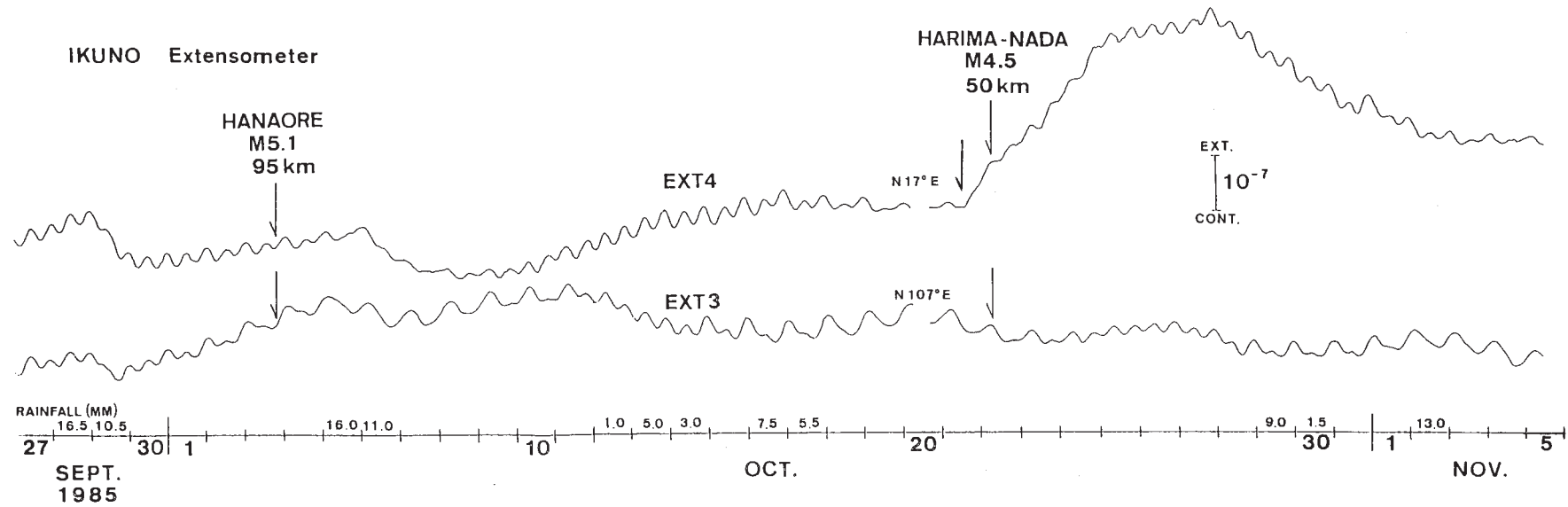
第2図 (a) 生野地殻変動観測室（京大理）と震央の位置。1：今回の地震，2：1984年5月30日山崎断層の地震。

Fig. 2 (a) Locations of the Ikuno crustal movement observation station and the epicenters, 1: the present earthquake, 2: the Yamasaki fault earthquake of May 30, 1984.



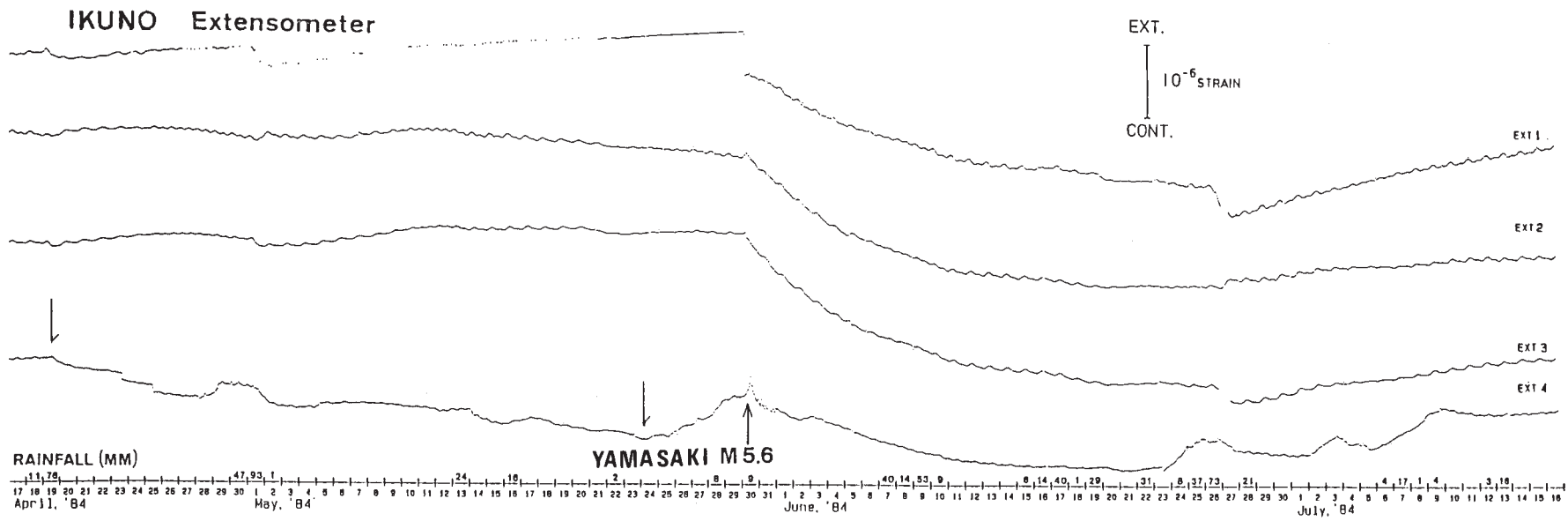
第2図 (b) 生野観測室内の計器配置。

Fig. 2 (b) Arrangement of instruments at the Ikuno station.



第3図 生野観測室における、今回の地震前後の伸縮変化

Fig. 3 Strain changes by two components of extensometer at Ikuno before and after the present earthquake.



第 4 図 生野観測室における山崎断層の地震（1984年5月30日）の前後の伸縮変化

Fig. 4 Strain changes by four components of extensometer at Ikuno before and after the Yamasaki fault earthquake of May 30, 1984.